

## 平成25年 現地視察学習会（根室訪問） 報告書

### < 1日目 >

#### 結団式

（10月19日（土） 9時30分～11時00分 羽田空港第1旅客ターミナル6階会議室 シリウス）

全参加者が時間通り集合。蓮池事務局長、石上座長にご挨拶いただいた後、参加者、事務局がそれぞれ自己紹介を行った。

蓮池事務局長の講話では、北方領土問題に関心を持たれるきっかけとなった東ドイツのご経験、モスクワ・サンクトペテルブルグ・チェコ・ハンガリーを訪問された時の様子、北方領土の返還を求める都民会議のリーダーとなった経緯、ビザなし渡航のご経験について、この20年間で4島はどのように変わってきたのか、全国における返還運動について等のお話をいただいた。

石上座長の講話では、北方領土問題に関心を持ち、子供たちに関心を持たせることの大切さ、教育者の役割は教育をしていくことであり、外務省の方針をしっかりとおさえた上で教育活動を行うべきであること、ご自身のご経験について、授業では子供たちに当事者意識を持たせることと臨場感が大切であること、また教育者会議の活動等についてお話いただいた。

参加者はお二人のお話をメモにとり、真剣に耳を傾けるなど、出発にあたって士気を高めることができた。



蓮池事務局長による講話



石上座長による講話

12時05分発ANA837便に搭乗し、機内にて昼食、13時45分定刻より10分ほど遅れて根室中標津空港に到着。天候は晴れ、上着を着ると丁度良い気温。

空港でトイレ休憩を入れ、バスに乗車。

## 根室中標津空港～北方四島交流センター

(10月19日(土) 14時15分～15時35分 バス移動)

道路沿いにはかなりの頻度で北方領土問題を啓発する看板が見られるなど、地域全体を上げて北方領土問題へ取り組んでいる雰囲気が感じられる。

バスの中では、蓮池事務局長、前回参加者の清宮先生、島先生による体験談をお話いただいた。本学習会参加にあたって、蓮池事務局長からは、北方領土問題に取り組むこととなった経緯や四島に訪問された際の交流の様子、学習会でみなさんに学んでいただきたい点についてお話をいただき、清宮先生・島先生には前回参加を踏まえ、学習会のポイントやアドバイス等をお話いただいた。その後石上座長による映像資料に関する講話を聴講、映像資料鑑賞にあたってのポイント、また今後授業で活用していくようメモを取りながら、しっかり鑑賞するようお話いただいた。その後、映像資料を鑑賞(約45分)。



蓮池事務局長による体験談



町のいたるところに北方領土啓発看板



全参加者による体験談



石上座長による映像資料に関する講話

## 根室市役所表敬訪問

( 10月19日(土)15時40分～16時35分 北方四島交流センター(ニホロ会館) )

根室市長を表敬訪問し、長谷川市長の講話を受ける。昭和20年12月1日の安藤石典根室町長によるGHQマッカーサー元帥への陳情書以来、今日に至るまでの根室市における返還運動の歴史について、また市長の思いについて講話をいただいた。参加者は市長の講話に聞き入り、大変貴重な講話を聴講することができた。主な内容は以下のとおり。

- ・ ソ連が日ソ中立条約を一方的に破棄し、日本に進撃してきた歴史について。
- ・ もしアメリカ軍が北方領土にいたら、ソ連は侵攻してこなかった。
- ・ 当時の安藤根室町長が、昭和20年の12月、アメリカ軍のマッカーサー最高司令官に要望書を持って行った。しかし、今は戦後処理で忙しいので、そっとして欲しいと、というようなことを言われて帰ってきた。これが北方領土返還要求運動第1号であった。
- ・ ソ連は襟裳から釧路まで線を引いて、北海道を縦に割って、半分をロシア、半分を連合軍が占領すると考えていた
- ・ 北方四島の海域では、魚介類が40万トンほど捕れる。しかし現実問題として、北方4島は、その魚介類を売ったお金で生活を続けている。
- ・ 日本とロシアで北方領土問題は未解決であると確認したことで国民世論がある意味安心してしまい、あとは外交の問題として返還運動が静まったという気がしている。
- ・ 領土問題で一番懸念していたのは、ロシアは民主国家であり、いざ島を返すとなると、世論のことを言い出すこと。しかしながら、真剣にプーチン大統領が決断すれば、島は帰ってくると思うし、ロシア国内でも暴動は起きないと考えている。
- ・ 今年は10年ぶりに首脳会談が成立し、来年もプーチン大統領の訪日が予定されており、今までと全く違う雰囲気となっている。
- ・ 来年、再来年が本当に節目になると思う。領土問題の解決は、国の根強い外交交渉によるものだが、最も重要なのは、それを支える国民世論、結集である。
- ・ 我々北方領土返還運動原点の地である根室市は、いかなる困難に会うおうとも、北方領土返還運動に邁進していきたいと思っているので、更なるお力添えを賜りたい。



蓮池事務局長による冒頭挨拶



根室市長による講話

## 北方四島交流センター展示見学

(10月19日(土) 16時40分～17時00分)

北方四島交流センター(ニホロ会館)を視察。ニホロ会館説明員より展示資料の解説をしていただいた。北方四島のジオラマ、最上徳内、近藤重蔵、高田屋嘉兵衛、松浦武四郎ら探検家の四島開拓の歴史や、別海・厚岸・国後にかけて集落を形成していたアイヌの歴史、などに関する資料が展示されていた。

参加者の先生方は熱心に資料を読み込む方が多く、もう少し見学時間が長ければ、との声も寄せられた。



四島の概要



高田屋嘉兵衛建造の船など探検の歴史



北方領土問題啓発のためのキャップアート



熱心に説明に聞き入る参加者

## 元島民(語り部)による体験談

(10月19日(土) 17時10分～18時10分 北方四島交流センター  
交流ホール)

昭和9年(1934年)歯舞群島(多楽島)出身の河田弘登志氏から島での暮らしやソ連軍による占領、強制送還、根室に入ってからこれまでの返還要求運動についての体験談を伺う。主な内容は以下のとおり。

- ・ 出身地である多楽島の自然、仕事の様子等について
- ・ ソ連軍が島へ侵攻してきた時の様子について  
若い女性を隠したこと、家の物や酒を取られたこと、銃で突かれたことなど

- ・ 島からの強制送還について  
客船ではなく、貨物船であったこと、樺太に連れてかれてからも、すぐに収容されずに待たなければならなかったこと、女学校を改装した、穴の開いた板のしかれた小さな部屋に家族が収容されたこと、食べ物も十分でなかったことなど
- ・ 根室や函館への移住について
- ・ 北方領土返還運動については、最近下火になってきていると感じられる
- ・ 北方領土問題を授業で扱ってもらうには、入試問題に取り入れてもらう必要がある。文部科学省にも直接お願いをしているところ
- ・ 学校教育の中で扱われるようになれば、もっと若い人がこの問題に理解を示し、何かやるうという気になると思う



河田氏による体験談



熱心に聴講する参加者

#### 地元教員による授業等に関する講義

(10月19日(土) 18時45分～19時25分)

根室グランドホテル1階 芙蓉の間)

北海道根室高等学校の富谷先生及び北海道根室西高等学校の高橋先生より、北方領土問題啓発に関する学校等における自身の活動や、経験についてのお話を伺う。主な内容は以下のとおり。

#### 【北海道根室高等学校富谷先生】

- ・ 根室高等学校の出前講座について  
出前講座の良いところは、話せる度胸がつく、社会に出てからも自分の言葉で話せるようになる、沢山の人の出会えること。根室青年会議所の「後継者育成事業」が始まり。元島民、二世・三世との交流は生徒たちに非常にためになる。それをどう出前授業で活かしていくかが大事。
- ・ 署名活動について  
根室高校と根室西高校で1日ずつ行っている。学校祭でも行っている。

- ・ 内閣府の予算がついてからは、根室に来る中高生も多くなった。やはり実際に見て感じて欲しい。
- ・ 返還要求キャラバン隊は、署名活動を行ったり、北方領土返還運動のシンポジウムに出たりしている。
- ・ 総合学習の時間で、市役所の方を招いて「日露領土問題交渉史」の講演をしていただいた。その際に、北方領土根室研究同好会でも講演を行った。こういった活動を通して生徒たちがもっと勉強したいと思うことが大事。

【北海道根室西高等学校高橋先生】

- ・ 北方領土研究会について

当時元島民2世の3年生の女子生徒が北方領土のテーマに関することをやりたいと声がかかり、部活動を立ち上げようという話になった。始めは総務部北方領土研究会としてスタートした。次年度に正式に同好会となり、それを契機にさまざまな外部への活動が始まった。

出前講座をした生徒が順番に他の生徒の前で報告するという番組をやっている。四島ファミリー交流、元島民の方との三世代交流会、ビザなし訪問等も行っている。

地元のお祭りや根室さんま祭りで署名活動を行ったり、外務大臣が納沙布岬の訪問をしたときに、花束を渡して歓迎したり、というような活動もしている。

弁論大会にも出場し、準優勝、最優秀賞などを受賞した。

今年は経済ナビ北海道の北海道白熱授業という番組の出演オファーをもらい、また昨年度は「牧やすまさのスーパースクランブル」という番組で北方領土研究会の歩みと活動を紹介してもらった。

学校の研究会として、生徒の生徒による自主的な活動として充実していきたい。

- ・ 学校での北方領土に関する活動について

地理、歴史、公民だけでなく、理科、数学、国語、外国語等、各教科で北方領土を学ぶのではなく、北方領土で各教科を学ぶということをキーワードにしてやることを考えた。

- ・ 2年間の取組のまとめとして、研究収録を発行した。国語、理科、社会ではその授業案をまとめた。北海道の理科の研究大会でも授業案を紹介した。



北海道根室高等学校富谷先生



北海道根室西高等学校高橋先生

## 夕食・懇親会

(10月19日(土) 19時30分～21時15分)

根室グランドホテル5階「平安の間」)

石上座長によるご挨拶・乾杯の後、各参加者歓談。花咲ガニ、秋刀魚蕎麦など根室の特産品を中心とした夕食が提供された。夕食・懇親会には、語り部の河田さん、講義をいただいた北海道根室高等学校の富谷先生、北海道根室西高等学校の高橋先生、大迫先生、石川先生にもご参加いただいた。各参加者は、語り部の方・地元教員の方と活発に交流・意見交換を行った。



夕食



地元教員・参加者による交流

## < 2日目 >

根室グランドホテル～納沙布岬

(10月20日(日) 8時15分～8時50分 バス移動)

バス内では、北方領土問題の啓発DVD2本(多楽島紙芝居・ビザなし交流について)を鑑賞した。道路沿いには度々北方領土問題を啓発する看板が見られた。



多楽島に関する紙芝居



ビザなし訪問(北方墓参)

## 納沙布岬・北方館視察

(10月20日(日) 8時50分～10時15分)

この日は晴天に恵まれ、国後島も見ることができた。岬先端で集合写真を撮影し、その後は北方館館長の説明により北方館を視察した。

北方館では四島での暮らしを紹介するパネルの他、四島のジオラマや生物の剥製が展示されていた。望遠鏡で貝殻島や水晶島の様子が見える展望室も見学、よりはっきりと島の様子を確認することができた。

参加者は館長の解説に熱心に聞き入り、返還を求める署名も行っていた。館長からは、4島返還に対する熱い思いを伺うことができた。

その後、「四島のかけはし」で参加者全員による集合写真を撮影した。



納沙布岬



貝殻島



北方館視察



四島のかけはし

## 納沙布岬～道の駅スワン44

(10月20日(日) 10時15分～11時15分 バス移動)

納沙布岬からはバスで道の駅スワン44に向かった。バス内では、各参加者より、2日間の感想を述べていただいた。「昨日と今日で考え方が変わった」「実際に島を見たことで実感が沸いた」「知らなかったことを沢山学ぶことができた」などの感想を述べていただいた。この学習会の成果を今後の授業等で積極的に活かしていきたいとの意気込みも伺うことができた。



## 道の駅スワン44～中標津空港

(10月20日(日) 12時00分～13時40分 バス移動)

バス内では、内閣府北方対策本部より借りたDVDを鑑賞した。(3本：徳光&木佐の知りたいニッポン!～若い世代につなぐ～北方領土返還運動、徳光&木佐の知りたいニッポン!～世代を超えて～北方領土返還運動の大切さ、みんなで考えよう私たちの北方領土) 少し早めに出発し、海岸沿いを通して空港へと向かうこととした。

## 解散式

(10月20日(日) 16時20分 羽田空港到着ゲート)

向かい風で予定より10分遅れ、16時20分に羽田に到着し、到着ゲートのスペースにて解散式を行った。



蓮池事務局長によるご挨拶



石上座長によるご挨拶